

佐屋中学校・佐屋小学校 校舎の新築は

佐藤 信男議員



老朽化、経年劣化で早急な検討が必要
教育部長



▲早急な検討が必要な佐屋中学校

問 平成30年度に実施した老朽化に伴う佐屋中学校の健全度調査結果は。

答 北校舎は、47年ほど経過。施設や設備の重度な老朽化で、建て替えたほうが良いとの結果だ。

問 教育委員会等で、校舎の老朽化に関する意見は。

答 児童・生徒が教育を受ける環境として、憂慮すべき状況がある。

問 学校を建設するために使うことができる基金の名称と基金残高は。

答 公共事業整備基金が活用できる。令和元年度末見込みで、59億3900万円だ。

問 老朽化が進んでいる佐屋中学校、建築年次が古い佐屋小学校から計画的に建て替え新築を進めるべきだが、考えは。

答 老朽化、経年劣化で、早急な検討が必要。



▲早急な検討が必要な佐屋小学校

暮らしや生活を
守る交通の
確保は

問 運転免許証返納者などの高齢者が、住みやすい地域公共交通の見直しは。

答 令和2年度から高齢者福祉タクシーの助成を80歳以上の全ての方とする。高齢者の移動手段の確保と交通安全に貢献できるものとする。